

親子で自然と山小屋とあそぼう！

群馬県前橋市 あかぎ保育の森・ビバピール





11月下旬の晴天の朝、前橋の街から赤城山へと続く道を登ると、上州名物の赤城おろしの空っ風が吹き抜け落ち葉が舞い上がる。冬のはじまりを感じさせるような凍える風だ。

群馬県の赤城山麓で、NPO法人ビバピール(代表:町田拓也さん)が行う、野外体験型の青空自主保育サークル「あかぎ保育の森・ビバピール」を訪れる。でも、こんな寒い日、森の中にみんな集まるのかなと心配していると、「おはよー」と次々と親子がやってくる。

今日はどんな過ごし方をするのかな。男の子2人で薪をたくさん乗せたソリを引っ張ったり、塵取りを使って一生懸命落ち葉をかき集めたり。「落ち葉の中でお芋がアツアツになるんだよー」と焚火をするお母さん。大きな籠には薪を入れてお米を1合炊き上げる。「メニューはあり合わせの食材で適当に作ってます」と町田さんは野外料理はお手の物だ。昼食はちよっと寒いので山小屋のなか。沢山のおかずを子どもたちもはしゃもじを使って自分で盛り付ける。時折こぼれるけどこれも経験の一つ。お母さんたちの会話も弾む。

土に触れ、水と遊び、火を操り、風を感じ、大空の屋根の下、みんなで共有できる贅沢な時間。親子の皆さんの心が開放されていくように見える。

ビバピールには、前橋に限らず群馬県内各地からの参加があり、県外からの移住者も多い。ビバピールの発足当初から参加している井尾さんは「自然の中での自主保育は珍しく、ここに自分のやりたいことがあると思った。子どもが自分で火を扱う経験は貴重で、危険を察知する力が育つと思う」と話す。今日初めて参加した月岡さんは「もっと早くこの活動に来ればよかったと思うほど居心地がよかった。人見知りのある子どもでも、自然の中で子ども同士で打ち解けていくことを期待



している」と話す。「子どもがビバビールを卒業した今でも参加し活動をサポートしている」「活動を通じて人との距離感が縮まった。家ではなかなか話せないことも、ここでは自然と共有できる」といった声も聞かれた。

大自然の中で、子育ての悩みや喜びを分かち合える仲間がいることが、お母さんたちの心の支えとなっているようだ。

ビバビールの特徴について代表の町田さんは「一日を通して自然の中で親子が過ごして同じ釜の飯を食べること。焚火を囲んでの調理や火おこし体験など、普段の生活では得難い実体験が得られること。自然を楽しみだけでなく、参加者同士がコミュニティの場を作り、つながりが深まっていること」などを挙げる。

青空自主保育をはじめのきっかけについて、町田さんは自分の幼少期からの自然体験や人々との出会いにルーツをたどる。町田さんは高校時代には自分でバスケットボールチームを立ち上げ、未成年では難しかった練習場所の確保のため奔走し行政と交渉を続けた経験がある。「振り返ると、自分の居場所作りと、コミュニティ作りの経験を重ねてきたのかもしれない」と言う。大学時代には、少人数制の子ども主体の保育に関心を持ち、チャイルドマインダーを学んだ。(チャイルドマインダーとは、イギリスで発祥した家庭的な保育サービスを行う専門家であり少人数保育のスペシャリストで100年以上の歴史を誇る資格)

活動拠点である赤城山麓の山小屋は、実は町田さん自身が子どもの頃に自然体験活動に通った場所でもある。私有地で山小屋のオーナーが運営する青空教室は今でも続いていた。この場所を無くしたくない思いもあった。オーナーに



野外体験活動の構想を話したところ心よく提供してもらい、2017年にビバピールの活動がはじまった。

町田さんは今後の目標として、ビバピールが「子育て支援施設」として認定を受け、公的支援も受けて運営できるようになればと考えている。潜在的にもビバピールのような野外体験活動のできる青空自主保育や子育て支援を求めている親子は多い。そんな人の受け入れをしたい。そして、安全の担保に加えて「子どもたちのために何ができるか？」を優先した保育に取り組みたいという思いがある。

町田さんの都合によりビバピールの活動日に不在になる時でも、保護者同士が主体的に運営を担うように成長してきている。子どもたちと対等に接して、お互いに信頼して怒りあったり笑い合ったりできるような同じ志を持った仲間が、もっともっと増えていければと町田さんは願う。

この日のビバピールの活動は、14時を過ぎたころから後片づけに入った。木からぶら下がるブランコも片付ける。けっこうな高さのあるハシゴを「みるくん」が一段ずつ登り、木に括りつけたテープを剥がしていく。下ではハシゴを支えるお母さん。一回ではできないけど体勢を変えながら、みるくんは諦めない。何度もチャレンジすると、見事に剥がして片付けることができた。

子どもの成長を自然と環境に委ね、見守るビバピールでの一日。町田さんは「親子の時間は有限だからこそ、ときには、頭でばかり考えずに、意味なんて求めず、自然のなかに身を置いて過ごす時間が大切なんじゃないか」と、ここに集う親子と一緒にこの活動を育んでいきたいと願う。

【連絡先】NPO法人ビバピール(代表：町田拓也さん)
メール：mail@viva-pipl.com